



こんにちは教育委員です

発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.87】H23(2011).3.16
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

おめでとう！！今金町でダブル受賞

平成22年度檜山管内教育実践表彰受賞

〔学校教育〕今金町立種川小学校
〔社会教育〕中　康夫(今金町卓球連盟顧問)

平成２２年度檜山管内教育実践表彰に今金町から学校教育分野で今金町立種川小学校が、社会教育分野で今金町卓球連盟顧問の中　康夫氏が受賞し、今金町としてはダブルの喜びとなりました。授賞式は、去る、２月２３日、江差町のホテルニューえさしで開催されました。種川小学校は、複式校の特性を生かした教育活動が評価されたもので、特に平成２０年度第５７回全道へき地複式教育研究大会の会場校として、算数的活動を通して問題解決能力を高める取り組みを広く全道に発信し、管内のへき地複式教育の充実に大きな成果を上げています。また、学校プールを活用した水泳指導で管内大会での好成績をはじめ、百人一首活動での全道大会連続出場、ふるさと先生などを通じ、地域の人材を活用した授業、ＰＴＡ研究大会での授業公開や保護者、地域と児童が一体となった体験活動などが高く評価されたもので心から感謝とお祝いを申し上げます。授賞式には、児童代表の千葉名実さんと坂田一俊校長が賞状と記念品を受け取りました。また、社会教育分野の個人表彰を受賞した中康夫氏は、今金町の体育スポーツの振興はもとより管内の卓球競技の発展にも指導的な立場で永年にわたり尽力された実績が高く評価され檜山体育協会からの推薦を経てこの度の栄えある受賞となりました。中さんのこれまでのご労苦とスポーツを通じて町づくりや人づくりに貢献されたことに心から感謝とお祝いを申し上げる次第です。授賞式には、体調の都合で代理として南川康男さんが出席し、代理受賞をいたしました。





〔平成２２年度の受賞者〕

□学校教育

今金町立種川小学校（校長　坂田一俊）

北海道立檜山北高等学校（校長　小向敏文）

鎌　田　孝　紀（乙部町立乙部中学校教諭）

□社会教育

中　　康　夫（今金町卓球連盟顧問）

平成22年度今金町PTA連合会研究大会
鹿内信善教授(教育大教育学博士)講演
テーマ『家庭学習の支援方法を考える』

去る、１月２７日（木）、今金小学校体育館を会場に保護者、教員、関係者併せて１００名を超える皆さんが出席し本年度の町Ｐ連研究大会が盛会に開催されました。



講師は、日頃から本町と教育大学との教育連携にご指導とご助言をいただいている北海道教育大学教授で教育学博士であります鹿内信善先生で、「家庭学習の支援方法を考える」と題して講演をいただきました。先生の講演からたくさんの示唆をいただきましたが、参加者を４人のグループにわけてのグループワークも取り入れられ、特に、保護者のみなさんは日頃触れることのできない方式で興味深い学習機会となりました。



また、先生のお話の中には今金町での実践も紹介され、教育委員会のスタッフ・特別支援教育支援員・教育大学大学生が共同で企画した「学びのキャンプ事業」や「通学合宿」の模様がプロジェクターで紹介され、本事業は地域全体が学んでいける先進的な実践事例**『今金式交流協同連携システム』**として鹿内教授により命名され、我が町の取り組みを改めて相互理解すると共に学びを共有する貴重な時間となりました。



更には、身近な家庭学習の支援として、誰かがそばにいるだけで社会的な促進が起こる**「食卓学習のすすめ」**（「但し、テレビは消して・・・」）について身近な食卓で母親が食事の準備をしながら、子どもへの愛情視線を注ぐことによる子どもの学びについてなど興味深い実例もお話いただきました。

今後は、学びの仕掛け人である本町の教職員を対象とした鹿内先生の講義を開催していきたいと考えています。

委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、平井委員長職務代理です。

『 嘘 と 方 便 』

イソップ童話に「狼少年」という話があります。少年はいつも夕方になると、「狼が出た、狼が来る」と嘘を言い村人を驚かす毎日で、たび重なる嘘に誰からも信用されず本当に狼が出て食べられた。世界的有名な話です。日本にも、いなばのしろうさぎ、カチカチヤマ、サルカニ合戦等嘘や欺きによって罰、報いをうける、だから嘘をついてはいけないという道徳、教訓を教える話です。



宗教的に観ると、嘘をついた少年の心を考えます。嘘をつくのは悪い、けれど嘘をつかずにおれなかった何かがあったのではないかと、少年は寂しかった、優しく包んでくれる両親や大人の温もりがほしかった、魂の叫びを聞き、慈愛の言葉をかけ、嘘をつかずとも安らかな人生を歩める道をともに探していこうとするのが宗教の立場だと思います。方便とは、ある真実、目的に至らせるための手立て、手段を意味します。ことわざに「うそも方便」というのがありますが、釈尊は、真実の教えを説く相手の素質、能力、環境などに応じて渡り石や助け船を巧妙でさまざまな種類の「善巧方便」を多く用いています。例えば、お金持ちの長者の大邸宅が大火にあい、たった一つしかない戸口から脱出することができましたが、多くの自分の子が全く気づくことなく邸宅の中を遊びまわっている。腕力に自信があるから、火中に飛び込んで子ども達をひとかかえにして救い出そうと考えました。しかし、てんでバラバラに広い邸宅で遊んでいる全ての子ども達を救い出すのに時間がかかりすぎ、焼け死んでしまうと思い、大きな声で呼びかけましたが、子ども達は幼く、父親が何を言っているのかわからず、また遊びまわっています。そこで、巧妙な手段（善巧方便）を思いつき呼びかけた。ここにおまえ達が欲しがっていたオモチャがある、戸口の外に置いてあるから、早く出てきて好きなオモチャを取りなさい。すると子ども達は、戸口の外に出てきて無事助かりました。しかし、それは嘘ですからオモチャは無く、子ども達はオモチャをねだりました。そこで長者は、全て自分の愛しい子ども達であり、差別なく等しくあたえた、と。以上が「法華経」譬喩品（ひゆぽん）の火宅です。ここの長者は、釈尊をたとえたものです。昨今は、嘘や欺きによって不幸な事件が多く、不安な社会生活となりました。また、嘘に嘘を重ねると自分自身を見失い、苦しみ、他人を傷つけ、迷惑をかけ、信頼もなくなります。自省自戒の習慣を身に付けることを強く感じています。日本「うそも方便、時には宝」、ドイツ「必要なうそは無害なのでいい」



今金町・せたな町教育委員合同
檜山北高等学校学校訪問

今金町教育委員会（橘　宣雄委員長）とせたな町教育委員会（桝田道廣委員長）両町の教育委員の連携交流事業として、去る２月１８日(金)今金高校と北檜山高校の統合校（昭和４７年４月１日）である北海道立檜山北高等学校（小向敏文校長）の合同学校訪問が実施されました。授業参観の後、檜山北高校からは、ここ数年高い進学率や就職率を維持している取り組みの内容や生徒達の教育実践についてキャリアガイダンス部の黒田教諭から報告があり、両町の教育委員からも高い評価の声があがりました。



また、教育懇談会では、今後の課題として生徒数の減少に伴う３間口の維持や特別支援教育の充実、瀬棚商業高校の募集停止による商業教育の充実、産業教育の充実に伴う農業後継者の確保などへの期待と要望が出され、小向校長からは、日頃の学校支援に対する感謝と今後の取り組みについて前向きな姿勢が示されました。



最後に、道立高校の適正配置計画への対応など両町がこれまで以上に連携し、理事者をはじめ、保護者や地域住民の方々に総合学科の特色を生かした檜山北高校の教育が推進されるよう地域ぐるみで支援していくことの重要性とせたな町、今金町の一層の教育連携の必要性が確認されました。

